

当院を利用される皆様へ ～ワクチン同時接種の勧め～

欧米に比べ大きく後れをとっていた日本の予防接種行政は、ここ数年、かつてない大きな変革期を迎え、やっとな先進諸国のレベルに達しつつあります。ワクチンで予防可能な病気はできるかぎり予防に努めようという考え(予防医学)が世界的に浸透してきており、今後も新たなワクチンの開発が進むものと思われます。小児医療に携わる者としては好ましいことだと思います。

日本で接種可能なワクチンは多数ありますが、それぞれ接種年齢、接種回数、接種間隔が決められており、免疫力の弱い乳児期に多くのワクチンが集中することから、それぞれ単独に接種してはすべてを規定通りに終了させることは困難な状況です。したがって、当院においても、海外においてはすでに標準化している同時接種を積極的に推し進めていこうと考えています。同時接種の安全性は世界的に確立されたものであり、日本小児科学会でも平成 23 年 1 月に接種するワクチンの種類(組み合わせ)、本数によらず安全な医療行為であることを公式な声明として発表しています。また、複数のワクチンを一度に接種して体に過剰な負担はかからないのかとの懸念もあるかと思いますが、人間のワクチンを受け入れて免疫を作り出す能力(抗原受容能力)は子供であっても底知れぬほど高いものですから心配にはおよびません。よくよく考えれば、現行の4種混合は4種類のワクチンの混合製剤ですから1回の注射で4種類を同時接種をしているに他なりません。また、同時接種によってそれぞれのワクチンの副反応が増強することはありません。そして何よりも大事なのは短期間で多種類の免疫が得られ、抵抗力のないこどもが早期に感染症から守られる(感染症は待ってくれません!)ということなのです。注射を痛がる子供を見ているのはつらいものですが、単独接種であれ、同時接種であれ、注射を打つ本数の合計は同じですから、痛い思いをする回数は同じです。むしろ同時接種のほうが痛い思いをした(痛い思いをさせた)日数を減らせるともいえるわけです。皆様、どのようにお感じになりましたでしょうか？ 以下に同時接種の一例を示しますので参考にしてください。もちろん同時接種は強制ではありませんのでご安心ください。

<任意接種について>

日本の予防接種には定期接種(無料)と任意接種(有料)がありますが、諸外国では任意接種はなく、すべて公費で受けられる定期接種のみです(つまりワクチンに定期とか任意とかいう言葉上の区別がありません)。この点がまだ日本が後れをとっている部分だと感じます。任意という接種してもしなくてもよいと受け取られてしまうことが大きな問題です。水痘では、脳炎、髄膜炎、小脳失調、おたふくでは難聴、髄膜炎、膵炎などが合併症として知られていますが、25 年も小児科医をやっているとこれらは決して稀ではないことを実感しています。このような合併症はワクチンの副反応より頻度が高く、はるかに重篤であることはいうまでもありません。水痘ワクチンが平成 26 年 10 月から 1~2 歳を対象に定期接種となりましたが、対象外の年齢でも任意接種として受けただければと思います。今後、任意接種は順次、定期接種に移行すると思われるのですが、その時期は不透明ですので、可能な限り任意接種も受けてもらいたいものです。

※下線は任意接種(有料)

水痘とおたふくは1歳を過ぎたら同時接種しましょう。麻疹風疹の1回目と同時でもよいです。水痘は3か月以上あけて2回接種がお勧めです。

肺炎球菌+ヒブ
肺炎球菌+ヒブ+BCG
肺炎球菌+ヒブ+ロタ
肺炎球菌+ヒブ+ロタ+B 型肝炎
肺炎球菌+ヒブ+4種混合+ロタ+B 型肝炎
肺炎球菌+ヒブ+4種混合+BCG
水痘+おたふく
水痘+おたふく+4種混合追加
水痘+おたふく+麻疹風疹(1回目)
おたふく+麻疹風疹(2回目)

ロタウィルスワクチンは飲むワクチンです(2回)。接種可能な期間は生後 6~24 週と短く、1回目と2回目の間隔は4週間以上あなければなりません。早期の接種をお勧めします。

おたふくも2回接種がお勧めですが、2回目は麻疹風疹の2回目(就学の前年)と同時接種が良いでしょう。